



令和6年3月26日(火) 雨 No. 35



▲会長挨拶



▲卓話の吉田正巳氏

会長の時間

会長 釜谷 和明

皆さんこんにちは。先週は季節外れの雪と強風の為、事故が多発する日もありましたが、桜の開花の便りが聞こえてくるようになりました。今年は規制のないお花見を楽しむことができます。以前と同じような光景なのか、何か進化した光景がみえるのか、楽しみです。

ロータリー年度の7月から6月のように、会社や団体により年度の始まりが違うわけですが、1月から12月までの年以外では4月から3月が一番なじみのある年度だと思います。そう考えますと、3月は卒業を迎える集大成の月になります。一年間を振り返ると共に、新たな一年をスタートさせる為の大切な準備期間の月にもなります。そう考えますと年度終わりまで後5日です。お仕事で、ご家庭で、趣味の活動で、今後を考える大切な時間を過ごして頂ければと思います。

さて、本日は社会奉仕委員会に担当して頂き、ゲストして、加古川認知症の人と家族、サポーターの会「加古川元気会」の元代表の吉田正巳様をお招きし、卓話をお願いしております。お忙しい所ありがとうございます。ご存じの方も多いと思いますが、吉田様は、加古川市役所に勤務され、最後は加古川市助役を務められました。現役当時は、決断の速さと行動力、そして周りに対する気づかひの素晴らしい方だとの印象があります。ご自身の体調不安と奥様の変調により退職されたとお聞きしておりますが、真っ黒に日焼けされ、自転車でも走り回っておられる姿を幾度となく拝見する機械もありました。当クラブの山口会員、水埜会員、吉川会員の同級生とお聞きしています。当クラブ70周年の記念事業とし、講演会等も計画させて頂き、お世話になります。

現在は先日卓話して頂きました、岡田会員が代表を引き継ぎ活動されております。

設立されるまで、そして設立されてから何かとご苦労はあろうかと思いますが、本日はどの様なお話しをお聞きする事ができるか楽しみにしております。

どうぞ宜しくお願い致します。

以上で会長の時間を終わらせて頂きます。

幹事報告

- 1) IFMR ジャパン(ロータリー親睦活動グループバイク日本支部)から、IFMR ジャパン大会北海道開催のお知らせをいただいております。受付にチラシをおいておりますのでご興味がおありの方はご覧下さい。
- 2) 本日例会終了後、地下1階中会議室に於いて 70周年実行委員会 第5回正副部会長会議を開催します。

ニコニコ



- | | | | |
|---|---|---|--|
| 省 | 略 | ☺ | 吉田正巳様、本日はよろしくお願ひ致します。 |
| 省 | 略 | ☺ | 吉田様、いつもありがとうございます。本日の卓話よろしくお願ひいたします。 |
| 省 | 略 | ☺ | 吉田さんをおむかえして。 |
| 省 | 略 | ☺ | 吉田正巳さん、本日の卓話ありがとうございます。記念事業もよろしくお願ひします。 |
| 省 | 略 | ☺ | 吉田さんお久しぶりです。卓話有難うございます。楽しみにしています。 |
| 省 | 略 | ☺ | 吉田さん、いつもバラの剪定を教えて貰って有難う。これからも宜しくお願ひします。 |
| 省 | 略 | ☺ | 吉田正巳さんようこそいらっしやいました。卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | 吉田正巳様、ようこそ加古川RCへ宜しくお願ひします。 |
| 省 | 略 | ☺ | 吉田正巳様、本日は大変お世話になります。 |
| 省 | 略 | ☺ | 吉田正巳様、本日はご苦勞様です。卓話よろしくお願ひいたします |
| 省 | 略 | ☺ | 吉田正巳様、ようこそ。本日の卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | 本日社会奉仕委員会担当で「加古川元気会」元代表吉田様をおよびし、フォーラムをさせていただきます。吉田様ご多用のところ誠に有難うございます。皆様宜しくお願ひ申し上げます。 |
| 省 | 略 | ☺ | テーブルの花いただきます。 |

以上13件 ¥28,000-
本年度累計¥1,567,000-

出席委員会

- | | | |
|-----|--------|---|
| ☆ 今 | 週 | 会員数 75 名 出席 50 名 出席免除 12 名 欠席 13 名 |
| ☆ 欠 | 席 | 者 省略 |
| ☆ 前 | 々 | 週 会員数 75 名 出席 49 名 出席免除 13 名 欠席 13 名 |
| ☆ ゲ | ス | ト 加古川認知症の人と家族、サポーターの会「加古川元気会」
元代表 吉田 正巳様 |
| ☆ | メークアップ | 加古川平成 RC 3/20 橋本眞、畑、高見、植田 |

親睦活動委員会

例会場当番

4月 2日(火) 山口、水川

4月16日(火) 衣笠、森



プログラム委員会

本日3月26(火)	4月2日(火)	4月9日(火)	4月16日(火)
フォーラム・ゲスト卓話 「認知症になっても安心して 平穩に暮らせるように」 加古川認知症の人と家族、 サポーターの会 「加古川元気会」 元代表 吉田 正巳氏 社会奉仕委員会担当	環境保全デー ゲスト卓話 前田 初代氏 環境保全委員会 担当	例会変更 (日時・場所変更) 創立70周年 記念式典 20日(土)午後5時~ 於;加古川 プラザホテル	次年度 委員会 I

4月のおよろこび

- ◆ 誕生日祝 省略
- ◆ 結婚記念日祝

- ◆ 出席表彰
- ◆ 会社創立記念日

女性への支援に尽くす会員をロータリーが表彰

女性の健康とエンパワメントに力を捧げる会員に
2024年「シルビア・ウィットロック・リーダーシップ賞」が贈られる

文: Etelka Lehoczky

国際ロータリーの「シルビア・ウィットロック・リーダーシップ賞」の2024年の受賞者として、マンジュ・ファドケさん(インド、プネ・デカン・ジムカーナ・ロータリークラブ所属)が選ばれました。20年来のロータリー会員であり、女性たちを支えるために精力的に活動してきたファドケさんは、数多くのプロジェクトを通じて10万人以上の女性を支援してきました。

「女性たちは“自分は価値が低い”と思い込んでいる気がする」とファドケさん。「価値が低いということはない、何ごともしやる気さえあれば可能だという自信を与えたいんです」

ロータリーの仲間たちも、彼女の率先力と献身を褒めたたえます。

「マンジュさんは仕事や社会において功績を残し、前向きな姿勢と情熱にあふれています。このことが、影響力あるリーダーとして、また変革の推進者として優れている理由です」と話すのは、第3131地区ロータリー財団委員長シャイレシュ・パレカーさんです。「女性たちのために固い決意で活動しています」

健康診断や乳がん検診を行うクリニックの設置、月経衛生の推進キャンペーンなど、女性の健康をサポートする数々のイニシアチブでリーダーシップを発揮してきました。

ファドケさんはこう言います。「残念なことに、インドの女性たちは自分をないがしろにする傾向があります。例えば、ミルクが1リットルあったら、男や息子たちにあげるべきだと考えて

しまうんです。一家の女性が健康であれば、家族全体が健康になれるということを、女性たち自身が理解する必要があります」

ファドケさんは、子宮頸がんの主な原因であるヒトパピローマウイルス(HPV)の予防接種率の向上に取り組んでいます。予防接種のためにロータリー財団から 80 万米ドルの補助金を確保しただけなく、業者とのワクチンの価格交渉にもあたりました。その結果、ワクチン 1 回につき、通常価格の 3 分の 2 近くを節約できました。

「当時、インドでワクチン 2 回分の費用は 8,400 インドルピー(約 100 米ドル)で、とても高額でした」とパレカーさん。「女兒 25,000 人のためにグローバル補助金を 10 口調達したいと考えていたところ、ファドケさんがワクチン会社と交渉したおかげで価格を 3,400 インドルピー(約 40 米ドル)にまで下げることができました。これは、市場価格の約 40%です」。最終的に、農村部や部族地帯に住む女兒約 25,000 人に予防接種を行うという目標を達成できました。

ファドケさんは、家計、パソコン、法律、護身術、栄養管理、月経保健といった生活スキルを女兒たちに教えるために、動画と冊子を使ったプログラムの企画と立ち上げも援助しました。地区の代表的イニシアチブとなったこのプログラムでは、ビタミン剤と衛生用品も無料で配布し、推定 10 万人の女兒に支援を提供してきました。

低所得の学生向けの職能教育施設「SkillArbor」を運営するファドケさんにとって、このプログラムの企画に携わったのは自然な選択でもありました。「学びながら収入を得る」というアプローチを取るこの施設は、プログラムの初日に参加者と雇用主を結びつけます。自らも起業家であるファドケさんは、自営業をしたいという女性を援助することに特に関心を持っています。デリバリー運転手としてのビジネスに関心のある参加者向けの運転手教育プログラムでは、参加する 1,000 人の若い女性たちを地区が募集しました。

ファドケさんはこう言います。「若い女性たちが運転方法を習得できれば、流通会社の運転手として雇用されると思ったのです。学校への子どもの送り迎えに使えるバンも提供しました」

10 年以上にわたり、女性を対象とした無料のワークショップを開催し、マハラシュトラ州当局、Utkarsh Welfare 財団、Indira Group of Institutes といった団体とも緊密に協力してきました。自身にとって一番印象に残っているのは、ほかの少女たちに武術を教えるビジネスを立ち上げた 17 歳の少女のサクセスストーリーです。

「彼女は武術のクラスを開校し、今ではとても繁盛しています」とファドケさん。「『ビジネスが成長して高収入が得られるようになり、周りの人たちは驚いている』と彼女は言っていました。そう聞いて私も感動しました」

また、法的な制度と自分たちの権利について女性たちが理解できるようにするための支援も行っています。6 年間にわたり、プネ警察本部の女性安全委員会のメンバーを務め、週に 10~12 人の女性に法律、家計、紛争解決に関するアドバイスをしています。

「ファドケさんは素晴らしいリーダーです。とても接しやすく、一緒に活動していて気持ちのいい人です」とパレカーさんは言います。

ファドケさんはロータリー第 3131 地区の現ガバナーであり、クラブで会長、財団委員長、会員増強委員長を歴任しました。一番好きなロータリーのプログラムは RYLA(ロータリー青少年指導者養成プログラム)で、2003 年にロータリーに入会以来、地区の RYLA 行事を手伝ってきました。

— 2024 年 3 月



国際ロータリーの 2024 年シ
ルビア・ウィットロック・リーダ
ーシップ賞の受賞者、マンジ
ユ・ファドケさん(インド、プ
ネ・デカン・ジムカーナ・ロー
タリークラブ所属)